

2025 年度 鈴鹿医療科学大学大学院
医療科学研究科 医療科学専攻 臨床心理学分野
第Ⅱ期特定分野の社会人特別選抜入学試験問題

受験番号： _____ 氏名： _____

* 各ページ上部の所定の欄にも受験番号を記入してください。

問題 1

あなたの職場で心理専門職として、あるいは大学院臨床心理学分野で学んだことを活用して業務を行うとしたら、どのようなことに取り組むか、職場内での取り組み、職場外の関係機関との連携、地域貢献、心理支援に関する研修など、多角的かつ具体的に取り組みの内容を述べなさい。なお、対象となる職場の種別を明記しなさい。

(職場の種別例：中学校、特別支援学級、〇〇科病院、適応指導教室、特別養護老人ホームなど)

職場の種別

出題の意図

自らの職域に応じた専門性やその経験が生かして、論述することができるかどうか。大学院での学修に備えて、どのような準備がなされているか。大学院での学びを修了後、どのように活かしていきたいと考えているか、具体的に述べられているか。

解答例

該当なし。

問題 2

事例概要を読み、以下の各問に回答しなさい。

事例概要

中学 2 年生の女子 A さん。夏休み明けから「他の人が怖い」と訴えるようになり、教室に入ることが出来なくなり、現在は別室で学習をしている。元々は快活な性格で校内での交友関係も広く、担任教師や家族はその変化に驚いている。A さん本人は、夏休み中に友人と些細なトラブルがあったことが現状の原因だと捉えているようだという。心配した担任がスクールカウンセラー（以下、SC）の利用を勧め、SC が本人と母親に会うこととなった。別室担当の教員からは、学習内に A さんの集中力が途切れやすいこと、誰もいない教室でも時々周囲を気にする素振りを見せること、時折独り言を呟く様子がみられることなどが SC に伝えられた。

問 1 A さんのアセスメントを行う際に必要であると考えられる心理検査を一つ挙げ、その理由について述べよ（200 字～300 字）。※スクールカウンセリング場面での現実的実施可能性は問わないものとする。

出題の意図

統合失調症は青年期が好発期の精神疾患であり、スクールカウンセリング場面ではしばしば遭遇する。発症直前および初期の時点では他の不適応状態との鑑別が困難であるが、早期の精神医学的治療がその後の予後に影響を及ぼすため、心理職にとって疾患に対する理解の重要性は大きい。そのため、統合失調症が疑われる事例における心理検査を用いたアセスメントに関する理解を問う意図で出題を行っている。

解答例

A さんが呈している独語や被注察感、対人不安の高まりなどの各症状からは、精神病水準の状態にあることが疑われる。よって、A さんのアセスメントを行う際にはロールシャッハ・テストや風景構成法、TAT といった投射法検査、症状の評価を行うための BPRS、PANSS といった質問紙検査を用い、その病理水準と症状の評価を行うことが必要であると考えられる。このうち投射法検査は A さんの自我の状態、現実検討力、刺激に対する反応性、現実構成や知覚の程度などを推測する点で有用となると考えられる。ただし、A さんの状態によっては、これらの投射法検査が過度に侵襲的なものとなることも想定されるため、その実施の可否については慎重に検討を行う必要がある（300 字）。

問 2 A さんの呈している状態と関連すると考えられる診断名を一つ挙げ、その特徴と本事例が関連すると考えられる理由について述べなさい（300 字～400 字）。

出題の意図

統合失調症は青年期が好発期の精神疾患であり、スクールカウンセリング場面ではしばしば遭遇する。

発症直前および初期の時点では他の不適応状態との鑑別が困難であるが、早期の精神医学的治療がその後の予後に影響を及ぼすため、心理職にとって疾患に対する理解の重要性は大きい。そのため、統合失調症が疑われる事例における病理的特徴に関する理解を問う意図で出題を行っている。

解答例

Aさんは統合失調症の状態に近いのではないかと考えられる。統合失調症では妄想や幻覚、幻聴といった陽性症状のほか、感情や意欲の低下といった陰性症状が生じる。Aさんにおいては独語や被注察感、他者を恐怖する訴えなど、それ以前は認められなかった行動上の特徴がみられ、これらと陽性症状との結びつきが推測される。加えて、夏休み中に友人と些細なトラブルがあったものの、元々は快活で交友関係の広いタイプであったAさんが急に対人接触を拒むようになるという落差の大きさが認められる。統合失調症は青年期から好発期に入るため、Aさんのように青年期に急激に人格や行動上の変化が認められた際には統合失調症の発症を考える必要がある（300字）。

問3 スクールカウンセラーとして、あなたがAさんに対応する際の方針について述べなさい（300字～400字）。

出題の意図

統合失調症は青年期が好発期の精神疾患であり、スクールカウンセリング場面ではしばしば遭遇する。発症直前および初期の時点では他の不適応状態との鑑別が困難であるが、早期の精神医学的治療がその後の予後に影響を及ぼすため、心理職にとって疾患に対する理解の重要性は大きい。そのため、統合失調症が疑われる事例における基本的対応にかかる知識の理解を問う意図で出題を行っている。

解答例

スクールカウンセラーとしてAさんに対応する際には、ここまで述べてきたように、統合失調症の可能性を考慮しての対応が求められると考えられる。具体的には症状の重篤さを評価し、医療的な治療が必要であると考えられる場合には、教員や保護者を通じて医療機関の早急な受診を勧める必要がある。学校内での対応にこだわるのは症状を増悪化させてしまうリスクがあるため、早い段階からリファーを念頭に入れた対応が求められる。その際には医療の受診が必要と思われる理由を説明することに加え、メリットと見通しについても理解を得ることも重要となる。本人や家族にとって精神科の受診を勧められることは抵抗感を与えることがあるため、少しでも受診に対して前向きな態度を形成できるように働きかける必要がある。また、Aさん本人と接する際には、人と関わることで抱く不安に配慮し、過度に侵襲的にならないように関わることにも留意する（390字）。

問題3

下の英文を読んで、以下の問1～2に答えなさい。

Similar in functioning to anxious attachment, higher levels of avoidant attachment leads to lower levels of sense of mastery, thus forming the same potential threat to the creation and maintenance of peer relations.

① However, the etiology is dissimilar. Avoidant attachment is rooted in the distrust of others and their intentions. Having said this, avoidant adolescents will need to overcome their fears and distrust in order to establish peer relations. However, in overcoming this fear, avoidant adolescents are faced with the uncomfortable feeling getting close to others due to potential dependency issues (Çelikbaş & Yalçınkaya-Alkar, 2022). Besides these social relations challenges for adolescents, adolescents' mental health (Konaszewski et al., 2021) can be influenced by one's resiliency. Since the roots of resiliency are founded in one's attachment style, this should be taken into consideration as a potential threat to both adolescents' level of social competency and mental health.

出典： Godor, B. P., Horst F. C. P., & Hallen, R. (2024). Unravelling the Roots of Emotional Development: Examining the Relationships Between Attachment, Resilience and Coping in Young Adolescents. *Journal of Early Adolescence* 2024, Vol.44(4), 429-457.

問1. 下線部①を和訳しなさい。

出題の意図

心理学に関する英語の文献を読んで、その概要を正しく理解することができるかどうかを問うもの。

解答例

不安型愛着の機能と類似して、回避型愛着の傾向が高レベルであることは自尊感情や自己効力感の低さにつながり、仲間関係の構築や維持の難しさといった、同様の潜在的脅威を持つことになる。

問2. 文中の"fears"あるいは"fear"について、本文の内容をもとに説明しなさい。

出題の意図

文献中の重要な語句の意味を、心理学の文脈の中で正しく理解できているかを問うもの。

解答例

他者や他者の意図に対する不信感に根ざす恐怖